



7:9 その夜、主はギデオンに仰せられた。「立って、あの陣営に攻め下れ。それをあなたの手に渡したから。

7:10 しかし、もし下って行くことを恐れるなら、あなたに仕える若い者ブラといっしょに陣営に下って行き、

7:11 彼らが何と言っているかを聞け。そのあとで、あなたは、勇気を出して、陣営に攻め下らなければならない。」そこで、ギデオンと若い者ブラとは、陣営の中の編隊の端に下って行った。

7:12 そこには、ミデヤン人や、アマレク人や、東の人々がみな、いなごのように大ぜい、谷に伏していた。そのらくだは、海辺の砂のように多くて数えきれなかった。

7:13 ギデオンがそこに行ってみると、ひとりの者が仲間にも夢の話をしていて、ひとりが言うには、「私は今、夢を見た。見ると、大麦のパンのかたまりが一つ、ミデヤン人の陣営にころがって来て、天幕の中にまで入り、それを打ったので、それは倒れた。ひっくり返って、天幕は倒れてしまった。」

7:14 すると、その仲間は答えて言った。「それはイスラエル人ヨアシュの子ギデオンの剣にほかならない。神が彼の手にミデヤンと、陣営全部を渡されたのだ。」

7:15 ギデオンはこの夢の話とその解釈を聞いたとき、主を礼拝した。そして、イスラエルの陣営に戻って言った。「立て。主はミデヤン人の陣営をあなたがたの手に下された。」

7:16 そして、彼は三百人を三隊に分け、全員の手角笛からつぼと持たせ、そのつぼの中にたいまつを入れさせた。

7:17 それから、彼らに言った。「私を見て、あなたがたも同じようにしなければならない。見よ。私が陣営の端に着いたら、私がするように、あなたがたもそうしなければならない。」

7:18 私と、私といっしょにいる者がみな、角笛を吹いたなら、あなたがたもまた、全陣営の回りで角笛を吹き鳴らし、『主のためだ。ギデオンのためだ』と言わなければならない。」

7:19 ギデオンと、彼といっしょにいた百人の者が、真夜中の夜番の始まる時、陣営の端に着いた。ちょうどその時、番兵の交代をしたばかりであった。それで、彼らは角笛を吹き鳴らし、その手に持っていたつぼを打ちこわした。

7:20 三隊の者が角笛を吹き鳴らして、つぼを打ち砕き、それから左手にたいまつを強く握り、右手に吹き鳴らす角笛を強く握って、「主の剣、ギデオンの剣だ」と叫び、

7:21 それぞれ陣営の周囲の持ち場にいたので、陣営の者はみな走り出し、大声をあげて逃げた。

7:22 三百人が角笛を吹き鳴らしている間に、主は、陣営の全面にわたって、同士打ちが起こるようにされた。それで陣営はツェレラのほうのベテ・ハシタや、タバテの近くのアベル・メホラの端まで逃げた。

7:23 イスラエル人はナフタリと、アシェルと、全マナセから呼び集められ、彼らはミデヤン人を追撃した。

7:24 ついで、ギデオンはエフライムの山地全域に使者を送って言った。「降りて来て、ミデヤン人を攻めなさい。ベテ・バラまでの流れと、ヨルダン川を攻め取りなさい。」

そこでエフライム人はみな呼び集められ、彼らはベテ・バラまでの流れと、ヨルダン川を攻め取った。

7:25 また彼らはミデヤン人のふたりの首長オレブとゼエブを捕らえ、オレブをオレブの岩で、ゼエブをゼエブの酒ぶねで殺し、こうしてミデヤン人を追撃した。彼らはヨルダン川の向こう側にいたギデオンのところに、オレブとゼエブの首を持って行った。

主の戦いと前進のためには確信が重要ですが、ギデオンにはこれがなかったので、神様は斥候が敵陣で聞いたことにより、確信を与えました。それが指導力となり、全軍を鼓舞しました。そして300人という少数でも、彼らは戦えたのです。一方敵陣は大勢でしたが、ひとりの夢によって動揺しました。

少数でも確信と一致があれば勝利できるのです。「足りない」と思えるような現状でも、主の選ばれた条件で雄雄しく戦いましょう。

イスラエル軍が持っていたのはつぼとたいまつでした。彼らは勇士でしたが、それは剣の強者であることを意味しません。彼らに必要なのは、恐れないう者であったこと(2-3節)また危機感を持って備えていること(4-7節)でした。献身、さらには300人でも主の戦いに大勝利という信仰、そしてつぼとたいまつで陣営に向かってゆくという勇気でした。

今を生きる私たちは、誰のための戦いであるか、そして主の栄光を表すよう信仰の勇士として進んでいるかを問いかけてみる必要があります。

- ①神のみこころは？ ②どんな思いになりましたか？ ③生き方にどう適用しますか？ ④この世にあって何を実践しますか？